

株式会社ニツカトー
2022年3月期(第2Q)
決算説明資料

1. 中長期的な戦略について
2. 2022年3月期(第2Q)業績概要
3. 2022年3月期業績予想
4. 事業トピックス

1. 中長期的な戦略について
2. 2022年3月期(第2Q)業績概要
3. 2022年3月期業績予想
4. 事業トピックス

セラミックスと計測システムを通じて社会に貢献する

中期経営計画について

- 当社の存在意義である、「**独自素材の提供を通じて、脱炭素社会の実現に貢献する**」べく、持続的に成長し、社会的課題の解決に取り組み続けられる経営基盤の再構築期間と位置付け
- 2025年度を新たなスタートとして、中長期の持続的成長に繋げていくために中期経営計画「**CONNECT 25**」を策定



「CONNECT 25」のコンセプト

- 経営基盤の再構築を、【QUALITY】・【ENVIRONMENT】・【MANAGEMENT】の3つの成長ドライバーをテーマに実施
- 当社と事業の持続的成長によって、脱炭素社会の実現・社会的課題の解決に貢献し、時代に必要とされる“Reliable Company”を目指す

「CONNECT 25」における目標

持続的に成長し、社会的課題解決へ
貢献していけるだけの経営基盤の再構築

存在意義の確立

経済的価値・社会的価値の創出を通じた
自社の持続的成長【GROWTH】の達成と、
脱炭素社会実現への貢献

経営ビジョンの達成

“Reliable Company”

—時代に必要とされる企業だけが成長する—

達成のための3つの成長ドライバー

【QUALITY】

市場ニーズに応える製品・
技術の追求

- これまで築いてきた競争優位性を元に、変化する市場ニーズに応えられる製品開発を推進
- 素材・性能・品質・コスト面において、さらなる付加価値向上・差別化を追求

【ENVIRONMENT】

環境負荷軽減のための
技術開発

- 製品製造時の温室効果ガス削減・エネルギー利用減少を実現する、製造プロセス改善を推進
- 当社の製品により、顧客の生産工程における環境負荷の軽減に繋がる製品・技術開発を強化

【MANAGEMENT】

事業ポートフォリオの
再構築

- 全事業・製品を4つのステージ(重点・強化・再構築・再編)に分類定義
- 市場ニーズに応えるべく、競争力のある重点・強化事業には経営リソースを集中投下
再構築・再編事業は高付加価値化による収益性改善を図る

計数目標

- EV車・5G関連製品を始めとする成長産業での需要増加を確実に捉え、**過去最高水準の売上高100億円**を達成
- セラミックス製品の差別化・競争優位性の追求により収益性を改善、**営業利益率10%超**へ到達し、営業利益も過去最高益創出を図る

百万円	2020年度 実績	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標	増減 2020年度比
売上高 (前期比)	8,655	9,500 (+845)	10,000 (+500)	10,200 (+200)	10,800 (+600)	+2,145
営業利益 (%)	363 (4.2%)	900 (9.5%)	970 (9.7%)	1,030 (10.1%)	1,200 (11.1%)	+837 (+6.9%)
経常利益 (%)	440 (5.1%)	920 (9.7%)	990 (9.9%)	1,050 (10.3%)	1,200 (11.1%)	+760 (+6.0%)
当期純利益 (%)	275 (3.2%)	630 (6.6%)	680 (6.8%)	720 (7.1%)	820 (7.6%)	+545 (+4.4%)
ROE	2.5%	5.9%	6.0%	6.2%	7%達成 (8%目標)	+4.5%

計数目標 —セグメント別業績目標—

百万円	2020年度 実績	2021年度 目標	2022年度 目標	2023年度 目標	2024年度 目標	増減
セラミックス事業						
売上高	6,601	7,400	7,800	8,000	8,400	+1,799
営業利益 (%)	336 (5.1%)	850 (11.5%)	910 (11.7%)	970 (12.1%)	1,130 (13.5%)	+794 (+8.4%)
エンジニアリング事業						
売上高	2,053	2,100	2,200	2,200	2,400	+347
営業利益 (%)	27 (1.3%)	50 (2.4%)	60 (2.7%)	60 (2.7%)	70 (2.9%)	+43 (+1.6%)

✓ セラミックス事業:

- 成長が見込まれる先端技術産業※の需要拡大に対応し、製品付加価値向上を通じた収益性改善を推進
(※ EV車・5G関連部品に必須かつ、今後一層の需要増加が見込まれるMLCC(積層セラミックコンデンサ)や、EV車への搭載に向けて開発・実用化が進められている全固体電池 等)

✓ エンジニアリング事業:

- これまで事業独立した動きとなっていた営業活動から、**セラミックス事業との一体営業・ニーズ発掘を推進し、先端技術製品の研究開発におけるニーズ取り込みを強化**

1. 中長期的な戦略について
2. 2022年3月期(第2Q)業績概要
3. 2022年3月期業績予想
4. 事業トピックス

経営成績の概要

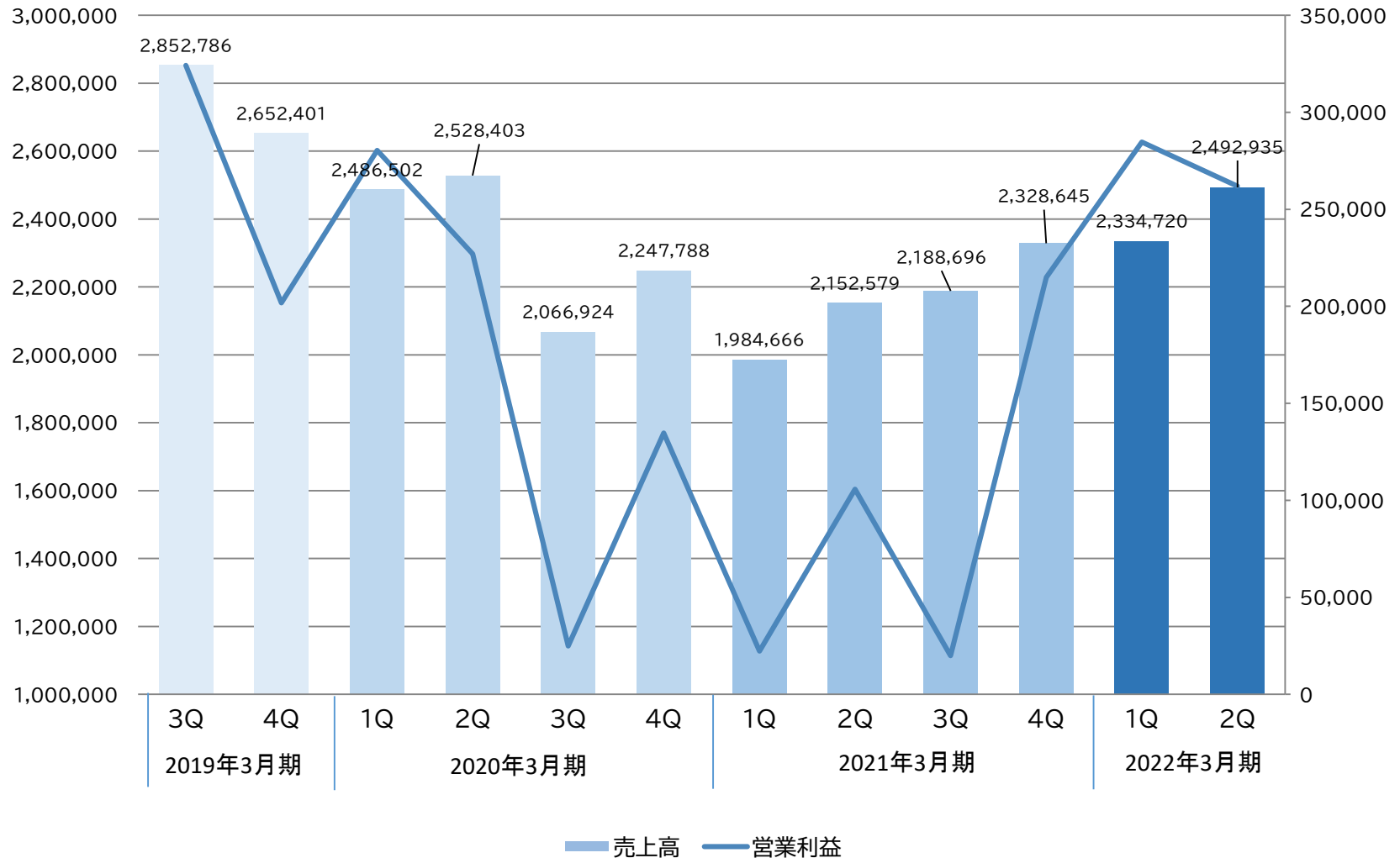
(単位：千円)	2021年3月期2Q		2022年3月期2Q		対前年		対通期予想	
	実額	売上比	実額	売上比	増減額	増減率	予想	達成率
売上高	4,137,246		4,827,655		690,409	16.7%	9,500,000	50.8%
売上原価	3,358,099	81.2%	3,633,447	75.3%	275,347	8.2%	7,300,000	49.8%
販売費及び一般管理費	651,036	15.7%	647,654	13.4%	-3,382	-0.5%	1,300,000	49.8%
営業利益	128,110	3.1%	546,554	11.3%	418,444	-	900,000	60.7%
経常利益	195,843	4.7%	571,621	11.8%	375,777	191.9%	920,000	62.1%
当期純利益	133,355	3.2%	394,047	8.2%	260,692	195.5%	630,000	62.5%
研究開発費	101,433	2.5%	105,676	2.2%	4,242	4.2%	-	-
EPS(円)	11.17	-	33.01	-	21.84	-	52.78	-
ROA(%)	1.8	-	4.9	-	3.1	-	4.0	-
ROE(%)	2.4	-	6.8	-	4.4	-	5.9	-

※ROA・ROEの数値は第2四半期の実績数値を通期換算して計算しております。

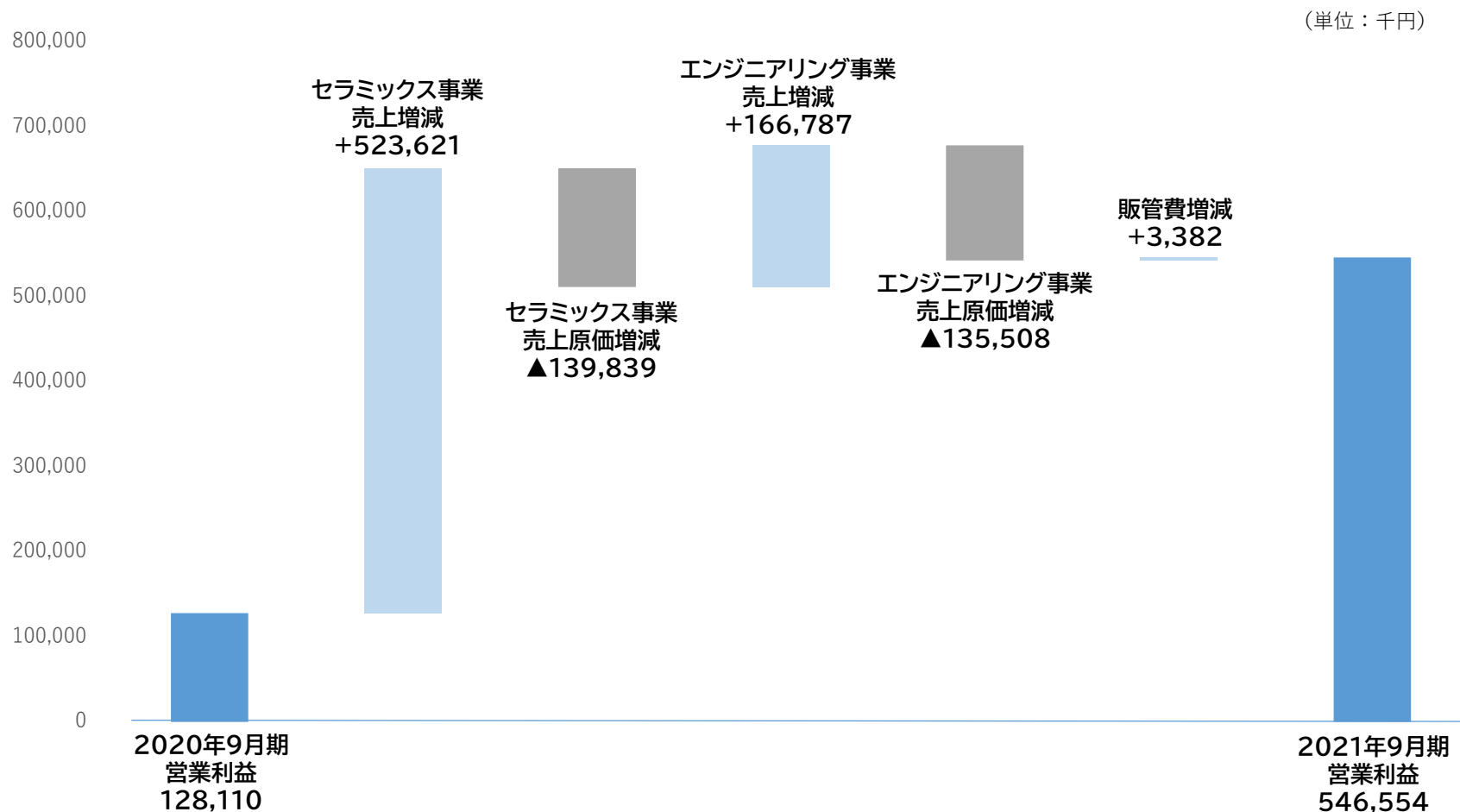
2022年3月期の通期予想を修正いたしております。詳しくは2021年11月1日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。9

売上高・営業利益推移(四半期毎)

(単位：千円)

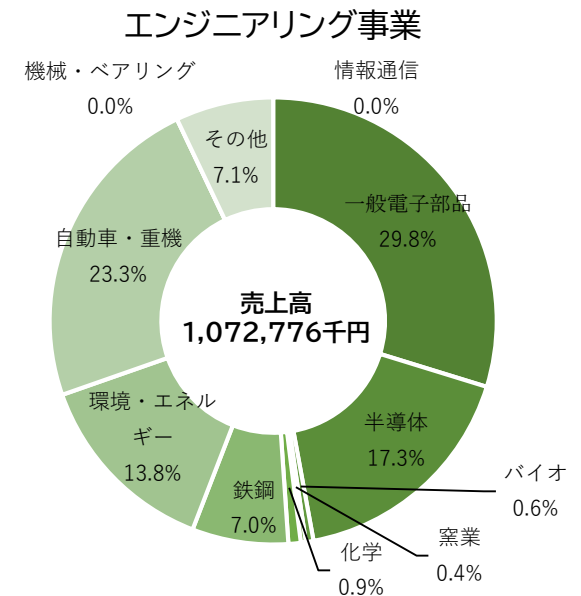
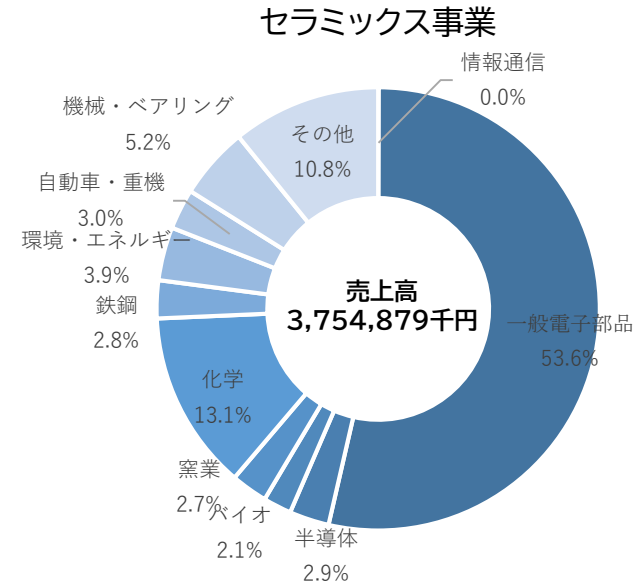
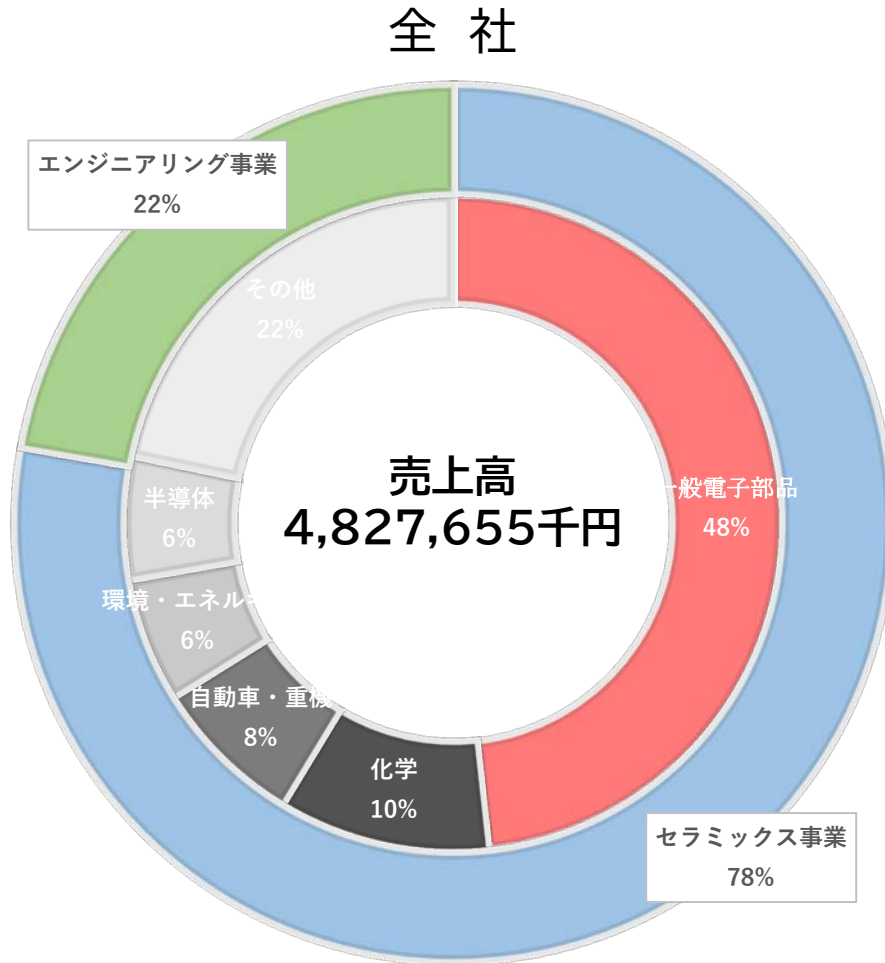


営業利益増減要因



- ✓ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い事業活動に一定の制約は残り、世界的な半導体不足等、不確実性も高まる中、当社主力客先である電子部品業界は堅調に推移しており、増収及びそれに伴う工場稼働率の上昇と併せて、前年同期比大幅増益となりました。

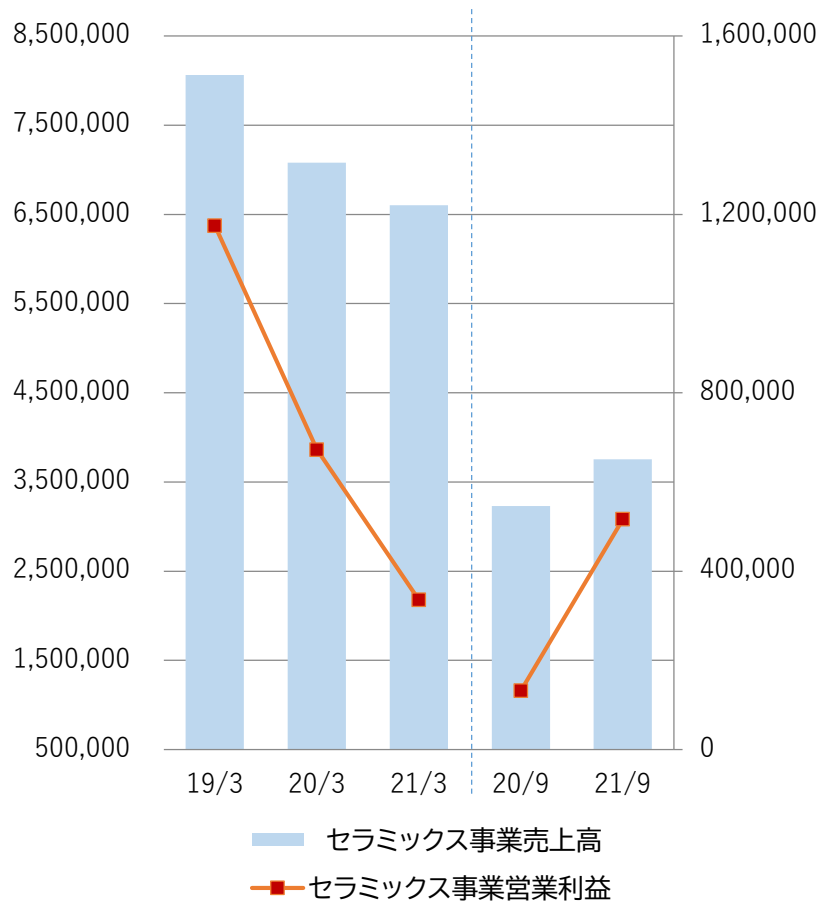
マーケット別構成比



セグメント別業績推移

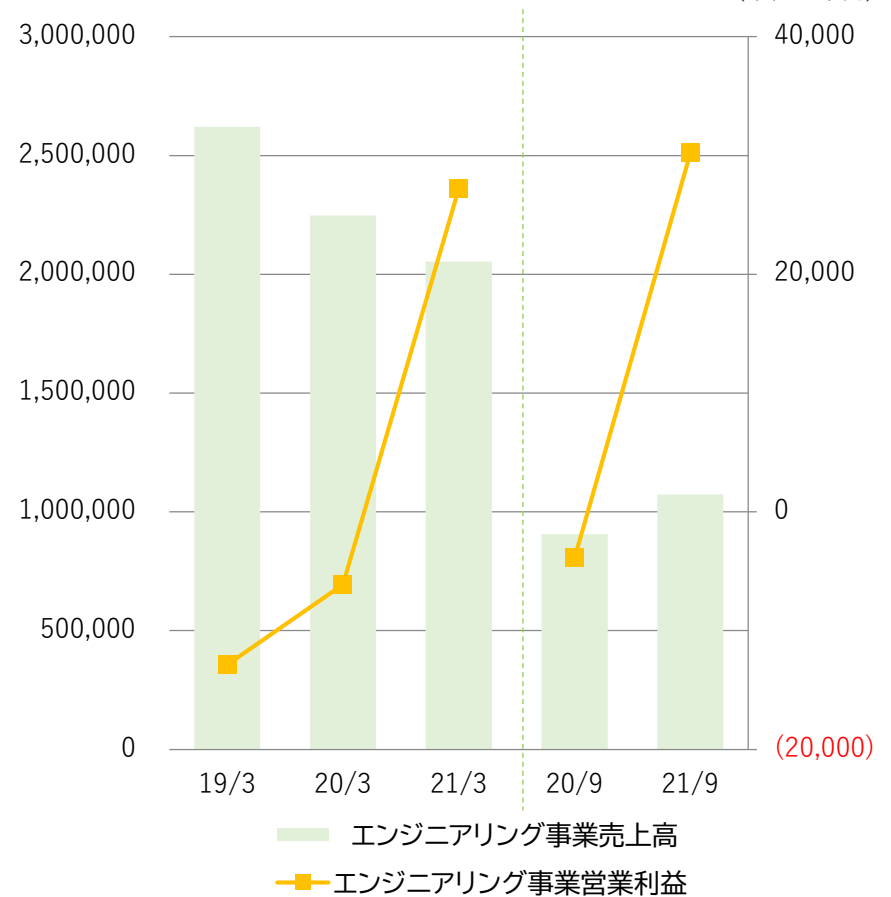
【セラミックス事業】

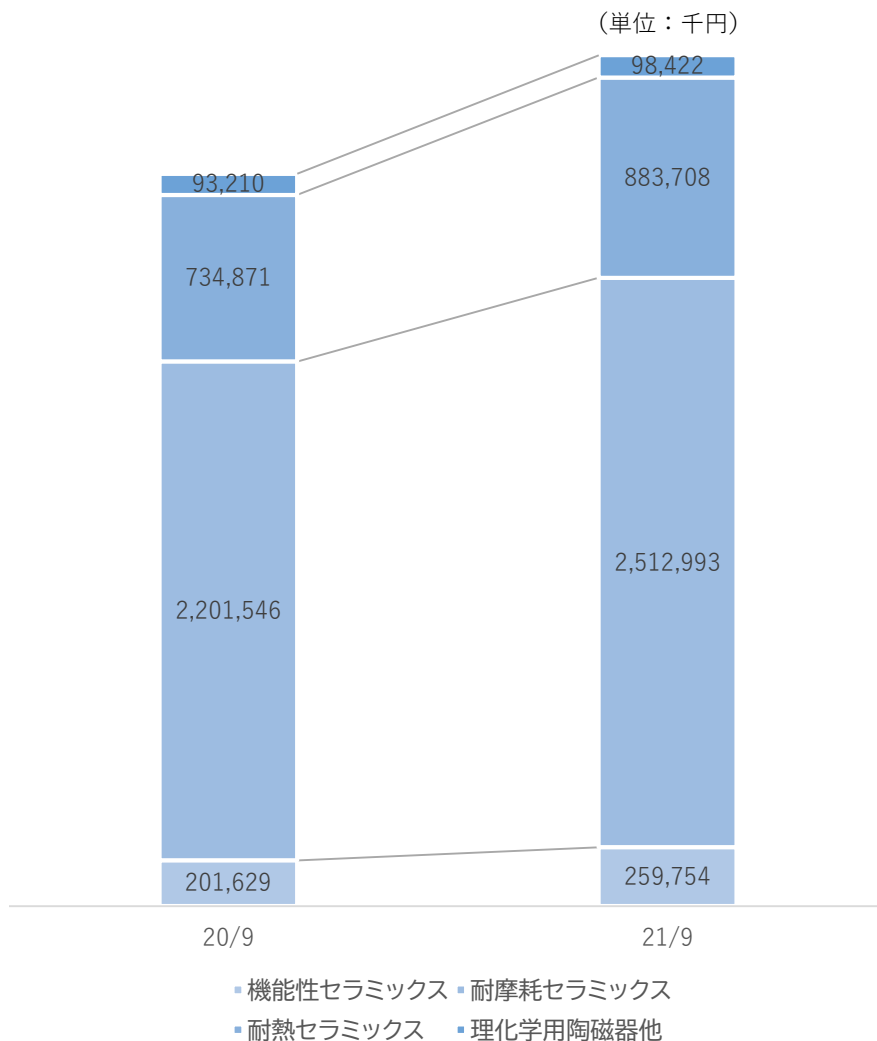
(単位：千円)



【エンジニアリング事業】

(単位：千円)

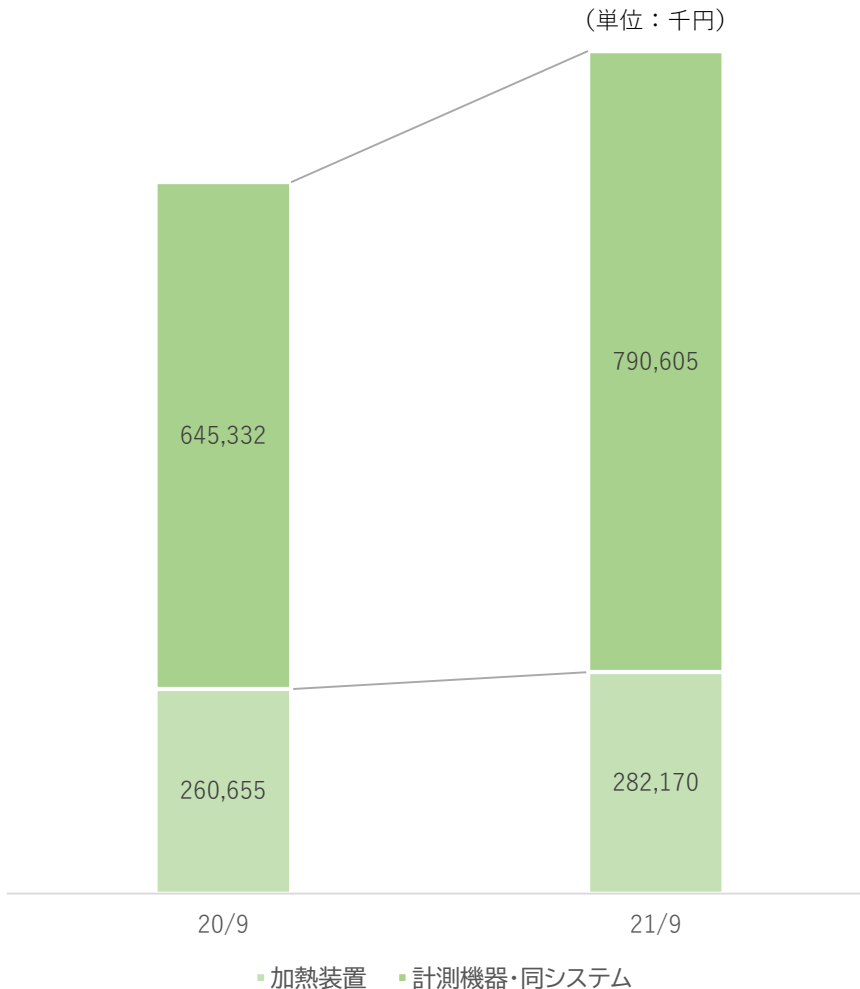




・引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で営業・生産活動の一部に制約を受ける。変異株拡大による第6波の懸念や半導体の供給不足など先行きの不透明感はいまだ払拭しきれず。

・主力の電子部品業界の市況は引き続き良好に推移。
当社セラミックス事業も増収及びそれに伴う工場稼働率が改善。

・今後も感染症対策を徹底し、品質改善・生産効率改善に注力。



・セラミックス事業同様に新型コロナウイルス感染症の影響により営業活動に一定の制約が残る。

・計測機器・加熱装置ともに増収となる。営業効率・利益率の改善が図れたことにより、セグメント利益も改善傾向。

・更なる効率化・利益率の改善に注力。

貸借対照表

(単位：千円)	21/3末	21/9末	増減率
流動資産	8,424,258	8,677,519	3.0%
現金預金	2,676,471	2,746,420	2.6%
売掛債権	2,955,751	3,232,429	9.4%
棚卸資産	2,757,273	2,674,722	△ 3.0%
その他	34,762	23,948	△ 31.1%
固定資産	7,505,943	7,281,347	△ 3.0%
有形固定資産	5,246,133	5,054,962	△ 3.6%
無形固定資産	151,902	196,506	29.4%
投資その他	2,107,907	2,029,878	△ 3.7%
資産合計	15,930,202	15,958,867	0.2%

- ・流動資産
 - 売掛債権 増収により増加
- ・固定資産
 - 有形固定資産 減価償却により減少
 - 投資その他 投資有価証券評価減により減少

	21/3末	21/9末	増減率
流動負債	3,108,682	3,041,098	△ 2.2%
買掛債務	1,418,076	1,466,754	3.4%
短期借入金	648,392	648,392	0.0%
その他	1,042,214	925,951	△ 11.2%
固定負債	1,391,553	1,192,161	△ 14.3%
長期借入金	1,004,520	880,324	△ 12.4%
その他	387,033	311,837	△ 19.4%
純資産	11,429,965	11,725,606	2.6%
株主資本	10,742,159	11,076,449	3.1%
評価・差額等	687,806	649,157	△ 5.6%
負債・純資産合計	15,930,202	15,958,867	0.2%

- ・流動負債
 - その他 営業外電子記録債務の減少
- ・固定負債
 - 長期借入金 長期借入金の返済により減少
 - その他 役員退職金の支払いにより減少
- ・純資産
 - 株主資本 増益による利益剰余金の増加

キャッシュフロー計算書

(単位：千円)	20/9末	21/9末	増減金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	703,011	611,219	△ 91,791
税引前当期純利益	195,104	571,372	376,268
減価償却費	324,612	331,871	7,259
棚卸資産の増減額	△ 10,191	82,550	92,742
その他	193,485	△ 374,575	△ 568,060
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 217,377	△ 356,366	△ 138,988
有形固定資産の取得	△ 358,128	△ 356,271	1,856
その他	140,750	△ 94	△ 140,845
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 154,057	△ 184,905	△ 30,847
配当金の支払額	△ 131,091	△ 59,878	71,212
その他	△ 22,966	△ 125,026	△ 102,059
現金等の増減額	331,575	69,948	△ 261,627
現金等の期末残高	2,742,172	2,746,420	4,247

・営業CF

税引前当期純利益
増収による影響で大幅増益

棚卸資産の増減額
在庫の回転率上昇により増加

その他
増収により売上債権が増加

・投資CF

有形固定資産の取得
主にセラミックス事業生産設備
の新設および更新

・財務CF

配当金の支払額
配当金 5円

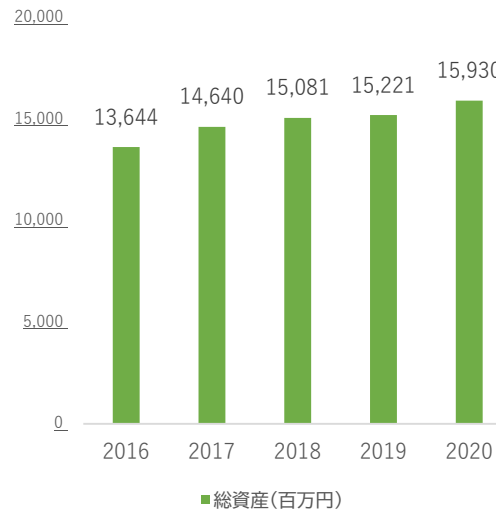
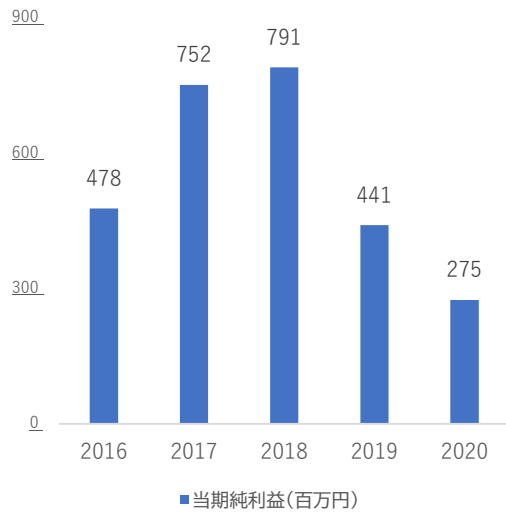
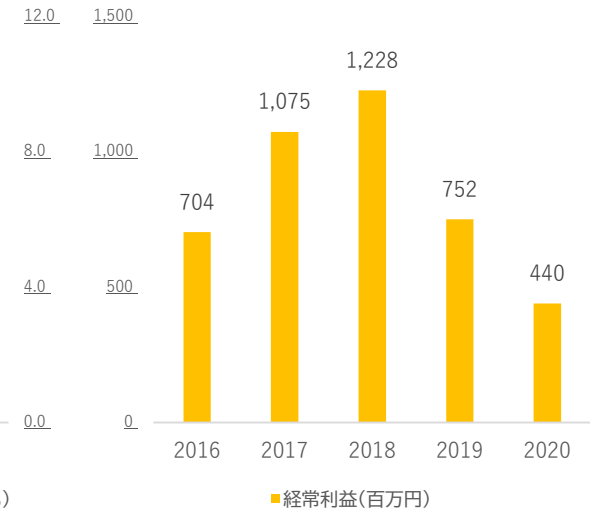
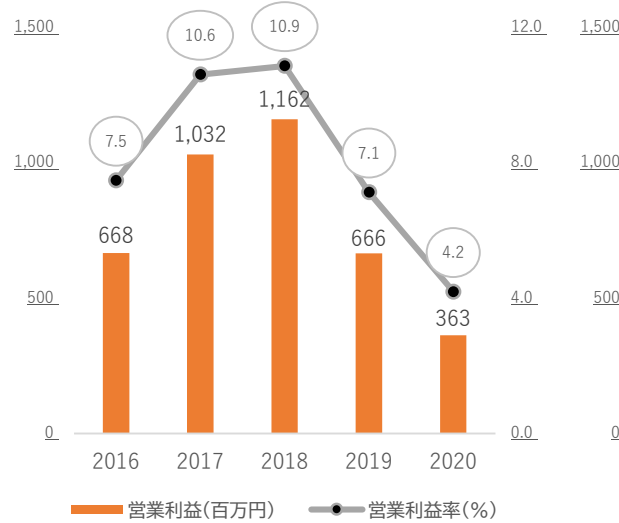
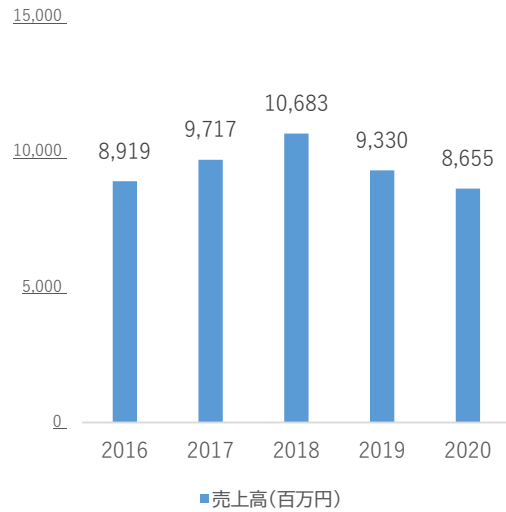
1. 中長期的な戦略について
2. 2022年3月期(第2Q)業績概要
3. 2022年3月期業績予想
4. 事業トピックス

2022年3月期業績予想(1)

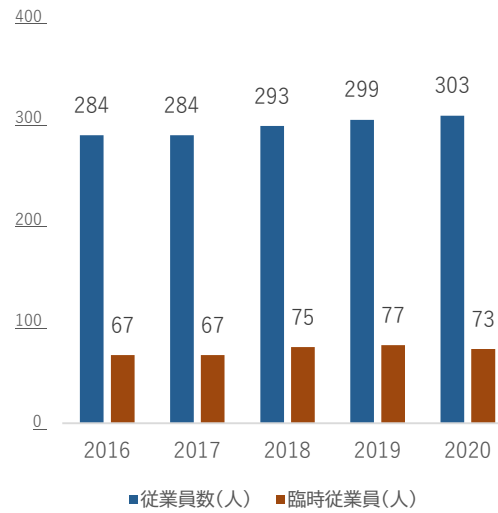
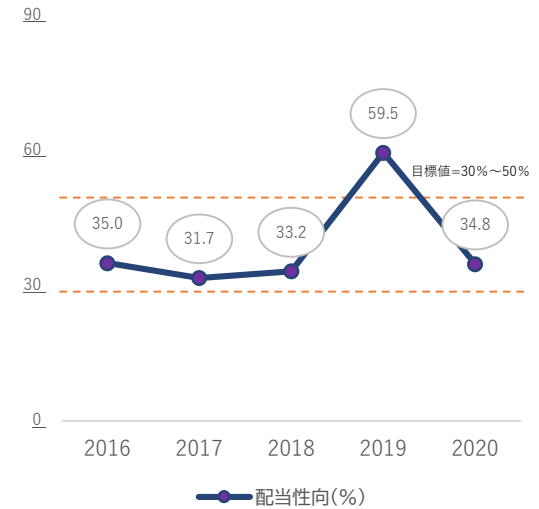
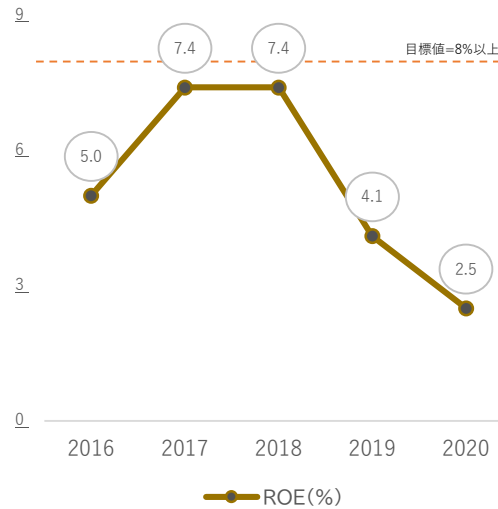
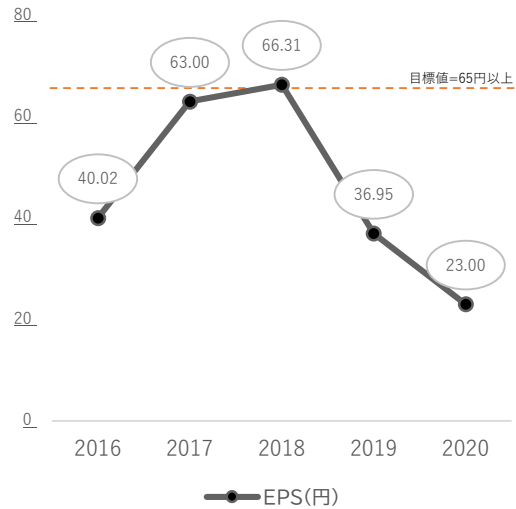
(単位：千円)	2022年3月期2Q(予測)		2022年3月期2Q(実績)		対予測比	2022年3月期(予想)		対通期比
	金額	売上比	金額	売上比	達成率	金額	売上比	進捗率
売上高	4,650,000		4,827,655		103.8%	9,500,000		50.8%
売上原価	3,700,000	79.6%	3,633,447	75.3%	98.2%	7,300,000	76.8%	49.8%
販売費及び一般管理費	700,000	15.1%	647,654	13.4%	92.5%	1,300,000	13.7%	49.8%
営業利益	250,000	5.4%	546,554	11.3%	218.6%	900,000	9.5%	60.7%
経常利益	260,000	5.6%	571,621	11.8%	219.9%	920,000	9.7%	62.1%
当期純利益	165,000	3.5%	394,047	8.2%	238.8%	630,000	6.6%	62.5%

※2022年3月期の通期予想を修正いたしております。詳しくは2021年11月1日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

企業データ①



企業データ②



1. 中長期的な戦略について
2. 2022年3月期(第2Q)業績概要
3. 2022年3月期業績予想
4. 事業トピックス

【次世代電池の開発を通じカーボンニュートラルの実現に向けて】

21世紀の世界経済を左右する「カーボンニュートラル（二酸化炭素排出の実質ゼロ）」のキーテクノロジーのひとつに蓄電池があります。当社はこれまで現在主流のリチウムイオン電池の製造工程にも数多くの製品を提供してきましたが、次世代電池の有力候補とされる全固体電池にも当社製品が使用されています。

全固体電池はリチウムイオン電池と異なり、電解質が液体ではなく固体の電解質を使用する事で高性能化（大容量、高出力など）が可能で、何より安全性も高まると期待されています。

一方で全固体電池の実用化にはまだまだ技術的課題が多く、産学官が連携してあらゆるアプローチで開発に取り組まれております。当社はこれら実現に向け長年提供してきました製品はもちろんのこと、先端技術の要望に応えるため、これまでに無かった製品の開発にも取り組み提供する事で、“技術開発力”と“ものづくりへのこだわり”で「カーボンニュートラル」の実現に向け貢献したいと考えております。

既存製品



粉碎・分散用ボール



熱処理用道具材



新製品

ユーザーの多様なニーズ
に応えるべく、これまで
にない製品の開発に注力。

カーボンニュートラル社会の実現へ

(注) 本資料に記載いたしております業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分にリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。